

会 議 録

◇事務局－子ども家庭部子ども若者課

電話：03(4566)2471

附属機関又は 会議体の名称	第 31 期青少年問題協議会 第 3 回専門委員会	
事務局（担当課）	子ども家庭部子ども若者課	
開 催 日 時	令和 3 年 7 月 15 日（木）午前 10 時 00 分～正午	
開 催 場 所	Zoom によるオンライン会議 (区役所内参加者：本庁舎 5 階 510 会議室)	
議 題	1 開 会 2 議 事 (1) 「豊島区子ども・若者総合計画」の施策検証について 3 閉 会	
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 名
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委 員	野村武司、南野奈津子、林大介、五十井八恵子、栗林知絵子、佐野佐知子
	事 務 局	子ども若者課長、子ども若者課管理・計画 G 係長、子ども若者課職員
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 子ども・若者総合計画の施策検証について ・ 2-1 「豊島区子ども・若者総合計画」令和 2 年度事業実施状況調査票 1 ・ 2-2 「豊島区子ども・若者総合計画」令和 2 年度事業実施状況調査票 2 ・ 2-3 「豊島区子ども・若者総合計画」令和 2 年度事業実施状況調査票 3 	

審 議 経 過

【開 会】

- ・事務局より資料確認

【協議事項】

委員長

それでは、議事の「(1)「豊島区子ども・若者総合計画」の施策検証について」について、9月の定例会を控えて各所管課から上がってきたものの検討ということでお集まりいただきました。事務局より解説をお願いします。

事務局

【資料1、2説明】

委員長

注意をして見る必要があるのは、重点事業でいえば上の項目の緑色の事業目標、計画事業でいえば、これも同じく緑色の事業目標、ここがとても重要となります。

重点事業であれば青色の目標に対して緑色の事業目標が適正に書かれているかどうか。計画事業であれば青色の目標に対して緑色の事業目標が適正に書かれているかどうかを注意して見てもらう必要があるというのが一つ。

それから、主管課評価のABCDという評価は、主観的に評価をつけてもらっているのですが、この評価の指標を少し変える必要があるかどうかを検討する必要があると思います。

Aは「計画に大きく資する」、Bは「資する」、Cは「不十分」、Dは「未実施または終了」という順序になっていますが、計画の達成との関係であれば、たとえばAは「計画を上回って達成できた」、Bは「計画を達成できた」、Cは「十分達成することができなかった」、Dは「未実施」という指標もあり得るかなと思います。また、オレンジ色の部分は数値目標で、計画策定時の現状値、年度実績と数値が挙がっている。数値にはいろいろな意味があって、毎年数値が上がっていかなければならないという数値上昇型、ある一定の数値を達成できれば良いという数値達成型、数値達成型に加えて数値を維持継続していかなければならないという数値維持継続型、という種類があると思われれます。この数値を見るときに、この3種類のどれにあたるのかを所管課に調査してもらうことは、表の見やすさからしても重要だと思います。数値上昇型については各年度の目標値が必要になります。数値達成型では達成する数値が必要で、数値維持継続型については数値達成型と同じで良いと思いますが、そういうのを追加して聞くことがあっても良いと思いました。

ABCDの主管課評価については、とりあえず今回出してもらった評価指標で見ていったほうが良いと思います。ここで出てきた調査結果にとりまとめていくうえで課題が生じるようであれば、次の年度に評価指標を変える。評価指標を変

えるのはあまり好ましいことではないので、本当は今年度できれば一番良いですが、とりあえずこの指標のままにしておきます。しかし、評価指標自体に課題があるということを指摘したうえで、来年度から新しい指標に、そして評価指標を変えたらその後は変更しないというつもりでやったほうが良いと思います。

3 類型での調査は可能でしょうか。

事務局 担当部署とも調整しながらより良いものを作っていければと思います。3 類型での調査は重点事業のみでしょうか。

委員長 重点事業・計画事業問わず全ての事業です。ここまでが、私の気になった点です。今日は、青色の計画目標と緑色の事業目標が一致しているかをざっと見て指摘いただければと思います。

事務局 重点事業の目標値は、計画策定時に設定しているので確認していただいています。計画事業の調査票2が今回設定されたもので、こちらが特にご確認いただく必要がある項目だと思っています。

委員長 一番注意深く見ないといけないのは、後ろのほうにある「再掲」の事業です。計画目標が異なるにも関わらず同じ事業目標が書いてあるものは内容を確認する必要があると思います。

事務局 おっしゃるとおりで、例えば調査票2の18ページ事業番号39の再掲事業が19ページにもございますが、事業内容や目標値が同内容となっているので、このようなものを特に注意深く見ていく必要があると思います。

委員長 このようなイメージでそれぞれの事業を確認していく必要があるということになります。

青色の計画目標と緑色の事業目標の整合性がとれていない事業を挙げていただくようお願いします。事務局はその結果を集約し、各委員は他のところで気になるところがあれば週明けまでに事務局へ意見を寄せることにしましょう。それを事業の担当課へ返すことができればと思います。

また、今後のことについて、今年度末に最終的な報告をするのにどういった目標値、成果物を考えるかということを検討する必要があります。9月の定例会では、手直しをした調査票を提供し、かつ新しい3類型の数値目標とそれに対応する目標値を明らかにしてもらうことを付け加えて、今回指摘があったものについて各所管課に手直しをしてもらったものを出してご意見をいただくことにしたいと思います。また、3月に向けてどういうことをするのか共通認識をもっておきたいと思います。

9月の定例会のやり方がこれまでの3月の定例会と同じやり方で終わってしまうと検証したことにはならないので、年度末に報告書を作って審議してもらおうと

いうことをしたほうが良いと思っています。なぜならば、計画の施策・検証のために作成された資料等がどのように活用されたのかを各課にもわかるようにすること、そうすれば計画に基づいて評価されているということがわかることで計画の位置づけが区の中でも明確になること、議会などに報告されることによって「子ども若者総合計画」は重要だとみんなが思えることがあると青少年問題協議会の意義も含めてこれからの子ども施策を推進していく意味での環境整備になるので、報告書を作成したほうが良いと思っています。いかがでしょうか。

委員一同 賛成です。

委員長 そうしましたら今後、まずは専門委員会で報告書のイメージを作り、並行して所管課への手直しを進めながら報告書作成に向けての準備作業をしていくことができると思います。

委員 今わたしたちが共有して評価しているのが昨年度の目標で、報告書が出来上がるころには今年度の事業も終わっていて、今の評価がBやCの事業のところは今改善しなければ次回も評価はこのままです。毎回、ひとつひとつを達成しているかを区民も含めて共有して意見や改善策を一緒に考えることがあったのか無かったのかわかりませんが、例えば「相談窓口があるのに3件しか実績がない」というのは、区民に周知しないと来年もこのままの可能性があるので。そこをどうしていくかを同時に今検討し、区民に広げないと来年も評価は変わらない気がするので、気づいたこと、できることからやったほうが良いのではないかと思います。

委員長 報告書をいつまでに作るのかという話で、予算に反映できる形でやるならば、報告書は9月に出さなくてはならないということになり、3月に出すのでは何にも反映されないまま次に進むことになる可能性があると思います。

今年度はこの検証を作るということもあるので、うまく反映できるかわかりませんが、スケジュール通りに進め、来年度はできる限りその次の年に評価が反映できるように考えていけるような方策を考えるということです。

委員 反映や形にするとかではなくて、今評価が低いものに関しては区民と共有することで、この半期で成果を作っていくようにしたいです。

委員長 評価との関係でいうと、評価されたことを次の年に反映するということは、当年度に相当早くやらないといけなくなります。それをどのようなスケジュール感で進めていくかということも、ひとつの課題です。9月の段階で意見が出るかもしれないので、出たものについて暫定的な意味でできる限り一年度で達成できるような形のことを考えてもらいたいと発言してもらってもいいし、事実上そういうお願いすることはあると思います。

いずれにしても報告書の完成イメージがまだ完全にはできていませんが、形ができあがれば、あとは毎年その形を目指して進めていくことになるので、だんだんサイクルが早くなっていくと思います。指摘されたことを次の年度に反映される方法をどう考えるかということなので、少なくとも9月の段階で指摘されたものについては議事録に残すことも含めて所管課にお願いする方向で考えていければと思っています。

委員

今回評価するのは行政がどう取り組んでいるかということですが、当事者である子ども世代の声はどう反映するのも考えなければならぬと思います。今この段階で青少年問題協議会の委員に子ども世代を追加することは難しいですが、報告書が出る前に意見を聞くのか、報告書を作った後に座談会でも良いので、何かそういう機会を作る必要があると思います。子ども代表者をどう確保するのかということもありますが、何らかの形で当事者世代が報告書に触れてそこに意見を言うとか、声を聴く人とかうまく作ることができればいいのではないかと考えています。

委員長

この協議会のサイクルとして、出来上がった報告書をどういうふうにするのかというのが一つと、報告書の作成に当たって、全部は難しいですが、当事者性の強いテーマについて、政策が子どもに届いているかという視点で聞く機会があれば一番良いですね。そうすると報告書にも反映できますし、特定の重要な部分について反映させることを試みてみる。そして、報告書ができた段階で意見を聞いてみるということを青少年問題協議会のサイクルにすることも考えられます。

事務局

いただいたご意見を踏まえ、全体のスケジュールを考えながら調整していきたいと思っています。

委員

「としま子ども若者応援基金」の進捗状況はいかがでしょうか。

事務局

「としま子ども若者応援基金」は、第2回定例会にて基金の条例制定・設置が決まりました。基金で実施する事業はNPOや地域の皆様から意見を聞いて精査しているところです。できれば第3回定例会にかけて、基金を使う補正予算を組んで秋頃には事業を実施したいと考えています。コロナ禍がまだ続いているので、ひとり親家庭への食糧支援など今後具体的な事業を決めていきたいと考えています。

委員長

承知いたしました。

以上をもちまして、第31期第3回青少年問題協議会専門委員会を終了いたします。ありがとうございました。

以上